

断熱腰壁の標準化

(目的) 「ティオ」および「トレオ」の腰壁 KF パネルの断熱仕様を標準化することで、外装全体の断熱性向上を目的とする。

(特徴) 今回の標準化では、KF パネルと断熱パネルが構成部材となる。

断熱パネルの芯材はポリイソシアヌレートフォームとし、必要な断熱性能を確保した。断熱パネルは KF パネルの裏面に配置することで、システム建築工事範囲での対応が可能となった。

断熱腰壁の外壁防火構造の性能を確保(PC030NE-0279)している。

腰壁断熱は、外壁断熱(S パネル、耐火 S パネル、断熱角波)との組合せを標準仕様とする。

(効果) 断熱腰壁は断熱パネル厚 35 mmの標準仕様で、熱貫流率 $0.50 \text{ m}^2 \cdot \text{k}/\text{W}$ となる。

(採用目標) 2019年1月からの販売を予定しており、年間 20 棟の採用を目指す。



断熱腰壁の試作試験状況

<以上>